

麻しん（はしか）の発生について

5月11日に当院を受診された患者様へ

令和5年5月11日に当院の外来を受診された患者様が、他院において麻しんと診断された事が5月16日に保健所からの連絡により判明し、現在、調査を進めております。

当該患者様と空間を共有した患者様におかれましては、感染する可能性があるため、案内を送付させていただいております。

つきましては、罹患された患者様との接触日から考え、潜伏期間と考えられる令和5年6月1日までの間は体調に注意し、麻しんを疑う症状（発熱、発疹、咳、鼻水、目の充血等）が現れた場合は、必ず事前連絡の上、医療機関を受診いただきますようお願い申し上げます。

なお、麻しんは感染力がきわめて強い感染症で、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現すると言われております。一方で、予防接種で防げる病気であり、すでに接種されている場合は未然に予防できている可能性はあります。

皆さま方にはご心配とご迷惑をお掛けいたしますが、これからも保健所をはじめとする行政の助言、指導に基づき、感染拡大防止に努めてまいりますので、何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

神戸百年記念病院
院長 朝田 尚宏

お問い合わせ先（平日9時～17時）
医療法人社団 顕鐘会
神戸百年記念病院
TQM部 感染対策部門
TEL 0570-086100（ナビダイヤル）